

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.156

2012/11/25

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

大勢のご協力でなんと15,000粒を播種しました

ササユリ播種作業を終えて(12/11/08)

ササユリの種子の発芽を確認するためにやまかど・森の楽舎で、ポットに播種したのは 2005 年の初冬であった。その発芽が確認出来たのは 2007 年の 4 月である。2007 年秋には採取した種子を試験的に第 2 分岐周辺に播種した。翌 2008 年から毎年現地に播種を続けてきた。食害防止の網掛け作業も大変な仕事量であるが、10,000 粒を超える播種作業もまた大変なことである。何とかこの作業を能率的に行えないかと思案してきた。そこで思い至ったのが、一般の方々に呼びかけてこの作業に参加して貰うことで、作業の軽減化を図ることと保全活動の意義を感じて貰う催しの企画となった。折しも地元西浅井中学校でも、地域の環境保全活動に参画することを計画された。またこの事業には、ブリヂストンの「ちょボラ募金」・「SAVE JAPAN プロジェクト」の応援をいただくことが出来予想外の参加人数で約 15,000 粒という種子の播種ができました。参加された西浅井中学 2 年生・レイカディア大学 OB・一般参加された方・しが NPO センター職員・会員のみなさん有り難うございました。7 年後の 6 月開花した様子を楽しみにしたいものです。この作業は毎年実施しますので今後とも協力よろしくお願い致します。これで現地播種を 5 年間実施したことになる。播種の目的は、里山の代表種ササユリそのものを増やしたいという直接的なこともあるが、開花株数を増やすことで現在実施している食害防止のための金網掛けやネットの設置という大きな負担（経費・人手）を減らしたいためでもある。食害防止のための作業をずっと続けることは口で言うほど簡単なことではない。現在 200 株余り開花している株が、500 株を超えた段階で金網掛けを止めて食害の影響を再調査し、保全活動を続ける必要があるかどうかを判断したいと考えている。この段階では、播種作業も止め種子の自然飛散に任せることも考えている。



播種する中学生(12/11/08)



一般参加のみなさんの播種(12/11/08)



レイカディア大学OBの播種(12/11/08)

食害防止のための作業は、ササユリだけでなくミツガシワ・ミヤコアザミ・リンドウ・アケボノソウ等々それぞれの植物の条件に合わせた作業が要求され、その条件を見極める必要にも迫られている。

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>



整備された四季の森の紅葉(12/11/13)

林床整備の行き届いた森の紅葉は格別

春の新緑の観察コースの「緑色の多様性」も圧巻だが、この時期の「紅葉の多彩さ」も吐息が漏れ歩を止めるのもしばしばである。交通渋滞を押して訪ねるモミジの名所の紅葉も、それはそれなりの美しさがあるのだが、四季を通じて保全作業で森に出入りする者にとっては、この多彩さがたまらない。時間・天気によってその多彩さは増幅されるとなるとその場を離れがたい。中でも林床整備が行き届いた所の紅葉は何となくすがすがしい。この林床整備には、春から岐阜市の青山中学・地元西浅井の永原小学校・西浅井中学生がそれぞれ力を注いでくれた。勿論過去 3 年間にわたる各種団体・森林レンジャー・今年の森林キーパーや会員の力も言うまでもない。多くの協力者と仲間での森がここまで整備出来たのは大きな成果である。この森を訪れた各種保全団体や研究者も口を揃えて「凄い」という賛辞を惜しまない。この林床整備の副産物として林床に草本類が増加してきたこともうれしい成果である。



コナラ林の紅葉(12/11/13)



ブナ林の紅葉(12/11/08)

3 年前この時期の湿原は、たわわに実ったミヤマウメモドキが光彩を放っていた。しかし今年は、その実を見つけ出すのも困難なほどの不作である。これに反してコナラは、過去に例を見ないほどの大豊作で、観察コースを歩くのも注意をしないと足元をすくわれるほどである。天然更新試験地でのコナラの萌芽発生率は 50 % 前後と悪いため、ゆくゆく植栽の必要性も考えられるので、森で採取したドングリを楽舎前に苗床をつくり播種した。



落果したコナラのドングリ(12/11/13)



苗床にコナラ播種(12/11/03)

3 年前この時期の湿原は、たわわに実ったミヤマウメモドキが光彩を放っていた。しかし今年は、その実を見つけ出すのも困難なほどの不作である。これに反してコナラは、過去に例を見ないほどの大豊作で、観察コースを歩くのも注意をしないと足元をすくわれるほどである。天然更新試験地でのコナラの萌芽発生率は 50 % 前後と悪いため、ゆくゆく植栽の必要性も考えられるので、森で採取したドングリを楽舎前に苗床をつくり播種した。